全国市町村国際文化研修所
学　長　荻澤 滋

年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃より、全国市町村国際文化研修所（JIAM）の研修事業にご理解ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。お蔭様で、昨年４月には開講30周年を迎え、これまでの受講者累計は12万人近くになります。令和５年度は、コロナ禍で中止・縮小を余儀なくされた対面研修を本格的に再開することができ、対面・オンラインあわせた受講者数は約6,000人となる見込みです。

研修参加者からは「講義、事例紹介により、行うべき取組みを体系的に把握できた」「状況に応じた様々な方策、自治体毎の考え方の違いを知り、思考の幅が広がった」「同じ業務を担当する全国の担当者と意見交換でき有意義だった」といった感想、評価をいただいています（HP上、各研修の実施状況報告からご覧いただけます）。

～経験を成長につなげる～

市町村職員を成長させるものは何か、と問われれば、多くの方が「経験」と答えるでしょう。日々の職務の中で、場数を踏む、新たな課題に挑戦する、困難な業務をやり遂げるといった経験の積み重ねは大きな力になります。

一方で、それとともに、職場外研修を活用して、経験から得られたものを自身の血肉として定着させることも重要です。JIAM研修では、最新の知見・事例講義、講師・他の参加者との情報交換、ディスカッションを行います。これまでの“ふり返り”とあいまって、ご自身の腹にストンと落ちる、入っていくものがあるはずです。

～自身をアップデートする～

市町村を取り巻く状況は、人口減少・少子高齢化、個人のライフプラン・価値観の多様化、デジタル社会の進展、大規模災害・感染症といった新たなリスクの顕在化など加速度的に大きく変化しています。グローバルサウスの台頭など国際情勢の変化もわが国に大きな影響を与えます。市町村職員がこうした社会環境、国際情勢の変化に対応していくためには、これまでの経験に頼るだけでなく、新たな学びを通して自身をアップデートしていく必要があります。

JIAM研修については、こうした要請に応えられるよう、新年度も、デジタル技術を活用した業務改革などDX分野の拡充はもとより、人材マネジメント、地域共生社会づくり、海外戦略など各分野で改善充実を予定しています。

昨今のように、若年人口の減少、人材流動化が進む中では、市町村の人事当局には職員一人ひとりの成長を支援することが従来以上に求められています。JIAMは、学ぶ意欲を持った職員の方々、それを支援する市町村の皆様に一層ご活用いただけるような研修企画・運営に努めてまいります。

本年もJIAMをどうぞよろしくお願いします！